

6 山城のNPO寄せ鍋フェスタ

～挑戦！ 出会いと絆 結べ!! 住民と地域活動～

山城広域振興局 企画振興室

山城NPOパートナーシップセンター

【概要】

- NPOについて府民アンケートを実施したところ、府民から「NPOという言葉は知っているが、身近にどんなNPOがあるか知らない」という声が多数を占めた。
- NPOパートナーシップセンターでは団体間交流に力を入れてきたが、地域に出かけていって、それぞれの地域事情に応じた事業展開に切り替えるとともに、NPOの活動を知らってもらうため、観光客の多い府立宇治公園で山城南部への誘客を目的に「ええもん発見市」を開催してきた。
- 今回は新たに地域住民に山城を知っていただく取組として「やましろ地域交流フェスティバル」を開催。学研都市の木津川市で実施し、若い世代を中心に多くの子どもが参加。地域への関心を高めるとともに、地域活動への参加に繋げていく。

背景

◇NPO等地域活動団体の認知度不足

山城地域では、NPO法人認証数は153を数え、地域力再生事業の動向は、事業件数で今年度100件にせまる勢いで、多くの任意団体に利用いただいている点も特徴となっています。

地域活動は年々質量ともに充実してきていますが、「住民意識調査」では、「NPOのサービスを受けたり行事に参加したことがない86%」、「どんなサービスがあるのかわからない47%」と回答されていて、住民とNPO活動のつながりが必ずしも充分ではないという結果になっています。

以上のことから、山城地域の活発な地域活動と、エンドユーザである住民の間にある距離を課題と考え、これを日々の生活空間である地域から真に住民とNPOとつながる場をつくっていくことが必要と考えました。

◇NPO同士のマッチング

こうした問題に取り組んでいく主体となるのが、京都府山城NPOパートナーシップセンターです。これまでの事業は基本的に行政とNPOを結び官民の協働が中心だったので、NPO同士のマッチングという民と民の協働を如何に進めていくのかということが今後の方向性となっていきました。

◇ これまでの取組

これまでセンターは、「協働サロン」を継続的に開催し、NPOの連携促進を目的とした場づくりを進めてきましたが、会議室のなかでのサロン、セミナーという限界があり、日々の活動へリンクして行かないという課題がありました。

協働サロン・やましろ

NPO・地域活動団体の連携を促進する目的で、主に同じテーマや地域で活動する地域団体を集め、発表・意見交換を実施し、交流の機会と協働・連携のきっかけを創出していく



会議室の中の
集いという限界

また、これまで5回にわたり、「ええもん発見市」という地域の特産品を核としたイベントを開催し、多くの地域団体が参加されましたが、物産市としてやるので出店可能な団体が限られてくるという課題がありました。



物産市という
限界

ええもん発見市 in 山城

地域活動の中から生まれてきた新たな特産品を活かし、山城の中に広がる諸地域を紹介・再発見していくイベント

目的

◇ 地域活動の住民 PR と NPO 同士のマッチングを促進

そこで、住民もNPOもひとつの場集まり、楽しく交流しながら、地域住民への地域活動 PR と NPO 同士の連携を促進するようなイベント「やましろ地域交流フェ

スティバル」の開催を検討することとなります。

個性豊かな地域活動団体が集い、
その魅力と持ち味を高め合う
→地域色豊かな
「NPOの寄せ鍋」の
ようなイベントに !!



- ◆ やましろ地域で日々活躍するNPOなど地域活動団体と一般市民がふれあうお祭り！
- ◆ やましろ地域の様々な地域活動が一堂に会し、ネットワークを創造していくきっかけに…

取組

◇ フェスティバル開催の壁

どんと詰め込んだ「豪華な寄せ鍋」的なイベントですが、それだけ予算がかかるといふ課題があり、推定 170 万円以上も必要とのことでしたが、木津川市をはじめとする多くの団体の皆様のご協力により、乗り越え 76 万円にまで抑えることができ、開催にこぎ着けることができました。

◇ NPO等地域活動団体の事前交流会開催

本番前も大切な過程と考え、イベント当日には難しい出展団体同士のコミュニケーションを図る事前交流会を実施しました。ほとんどの団体に出席していただいて気運は盛り上がり、前日の会場準備なども、多くの団体が自主的に来ていただけました。



◇ フェスティバル本番

当日は奈良県の協力もあり、せんとくんなどの「ゆるキャラ」にも出演いただき、盛り上げていただきました。多くの団体の参画によって会場全体が山城地域のNPO・地域活動を凝縮し再現する舞台となり、多くの住民に各団体のことを知っていただけの機会となりました。

また、会場が新興住宅地の広がる木津川市ということもあり、多くの家族連れが来場し、幅広い世代が交流し、楽しんでいただくイベントになりました。地域の地域資

源を活かした「きじ鍋」などの出展もあり、雨天にもかかわらず早々に完売となる盛況ぶりでした。

NPO・地域活動団体同士の出会いと語り



効果

- ◇ このフェスティバルでは、狙い通り、体験コーナーや販売ブースを通じての「住民との対話」、またワークショップやステージ発表を通じた「地域活動の認知」、そして実際に見て聞いて話していくなかで、各団体の魅力的な姿を見せる「活動のPR」の場を創り出せたと感じています。
- ◇ また、雨天にも拘わらず約 1,000 人が来場し、参画団体も約 40 団体を数えました。準備構想の段階から、団体同士の協働によって創り上げてきたイベントとなりました。このフェスタがひとつのプラットフォームの礎になるものと期待しており、その可能性を充分に感じさせる企画となったと考えます。

現在

- ◇ NPO等地域活動の認知度を上げることを目的として実施した今回の取組でしたが、今年度は、これまで別々に実施してきた「文化」、「科学」のイベントも合わせた「やましろのタカラフェスティバル」の開催に向けて準備を進めています。一度に様々な分野の体験ができるイベントとすることで、多くの地域住民に参加していただき、相乗効果を高めたいと考えています。

- ◇ 開催地となった山城南部では、フェスティバル参画団体が中心となり、相楽連携のイベントが企画されるなど、もう一つの目的であった民と民の協働・連携の動きが出てきました。これまでの行政主導でなく、徐々に地域主体の協働・連携の取組が生まれつつあります。
- ◇ また、大きなイベントばかりでなく、それぞれの夢を語り合う「やましろ夜楽」の取組も月に1度のペースで平日夜に開催するようになりました。堅苦しくない自由に意見の言い合える、そんな雰囲気センターに生まれ変わりつつあります。「主役は地域」、そんなことが実感できるような取組を進めていきます。

企画総務課コメント

府民の声から気づきを得て、NPO と住民のつながる場をつくっていかうと、地域へ出向いて、現地現場主義を実践した取組です。これまでから会議室でのサロンや物産市なども実施されていたとのことですが、もっと住民を巻き込んだお祭りとして、フェスティバルを開催しました。

事前交流会を実施して、本番前から参加団体がコミュニケーションを図り、当日は奈良県の協力も得て、多くの住民に NPO のことを知ってもらえ、大成功だったようです。同じ種別の NPO 集まりは多くありますが、地域という視点での集まりはめずらしいのではないのでしょうか。他の地域でも参考にできる取組として、今後も期待したいと思います。